

10

パソコンとの連携

パソコンと接続する……………	10-2
データ通信を行う……………	10-3
パソコンを使って電話をかける……………	10-19

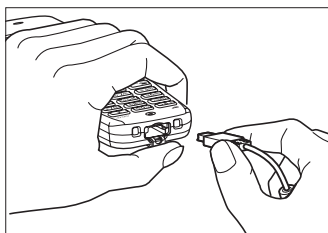
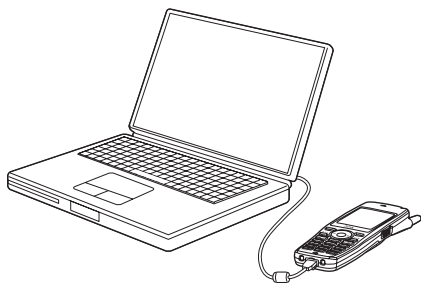
パソコンと接続する

パソコンと接続する

USBケーブル（Mini-B対応）で、パソコンと本電話機を接続します。


- 1 パソコンを起動し、パソコンのUSBポートにUSBケーブルのコネクタを接続する
- 2 本電話機のUSB端子のカバーを外し、USBケーブルのコネクタ（Mini-B）をUSB端子にまっすぐ差し込む

確認音が鳴り、画面に「」が点灯し、「データ通信 OK」と表示されます。



USB端子のカバーを押さえて、USBケーブルを差し込んでください。

お知らせ

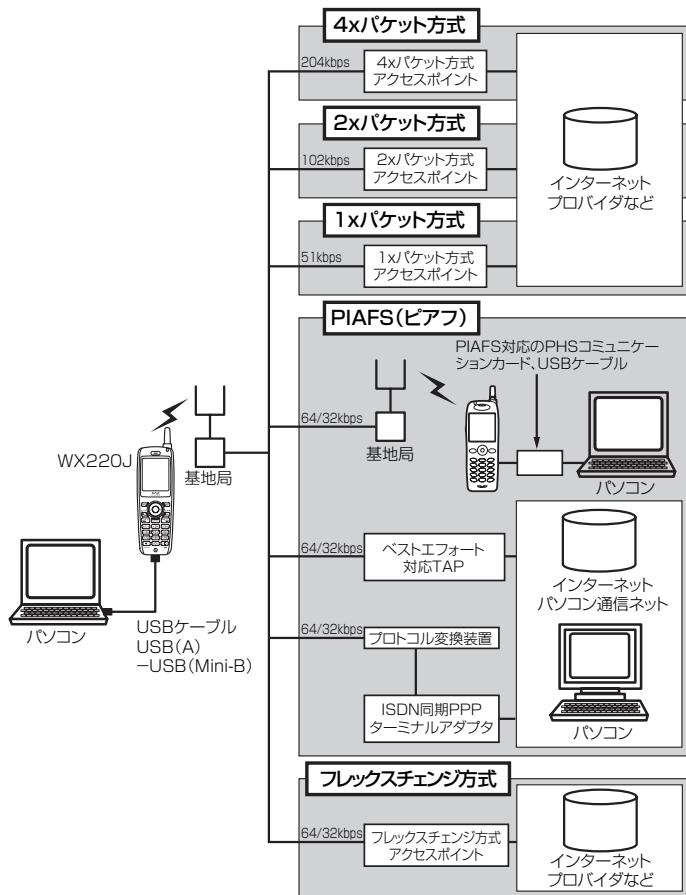
- USBケーブルを外すときは、接続と逆の順序で行ってください。
- 本電話機よりUSBケーブルを外すと、「」が消灯し、「データ通信 OFF」と表示されます。
- USBケーブルでパソコンと接続中に、パソコンから充電することもできます。ただし、Mac OS Xをご利用の場合、USBケーブル経由でパソコンから充電することはできません。「USB充電」(※P.12-4ページ)
- USB充電を「OFF」に設定してパソコンに接続した場合、データ通信を行ってなくても電池を消費して待ち受け時間が短くなることがあります。また、本電話機の電源を切った状態でも、USB充電を「OFF」に設定してパソコンに接続した場合は、電池を消費して待ち受け時間が短くなることがあります。
- ご利用になるOSによっては、最初に接続してドライバのインストールを行ったUSBポート以外のUSBポートに接続した場合、再度ドライバのインストールや設定が必要となる場合があります。

データ通信を行う

データ通信について

利用できる通信方式

本電話機で利用できるデータ通信には、4xパケット方式、2xパケット方式、1xパケット方式、64kPIAFS（ベストエフォート）、32kPIAFS、フレックスチェンジ方式があります。



パソコンとの連携

データ通信を行う

■ 4xパケット方式 (ヨンエックス)

ウィルコムが提供している最大通信速度204kbpsの通信方式です。情報をパケット (小包) に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

4xパケット方式は、1xパケット通信を4つに束ねることにより、さらにデータ通信速度を向上させています。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの4xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 2xパケット方式 (ニエックス)

ウィルコムが提供している最大通信速度102kbpsの通信方式です。情報をパケット (小包) に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

2xパケット方式は、1xパケット通信を2つに束ねることにより、さらにデータ通信速度を向上させています。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの2xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 1xパケット方式 (イチエックス)

ウィルコムが提供している最大通信速度51kbpsの通信方式です。情報をパケット (小包) に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの1xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 64kPIAFS方式 (ベストエフォート)

ウィルコムが採用している最大通信速度64kbpsの通信方式です。

基地局の利用状況や電波の状況により、64kbpsと32kbpsの2つの通信速度をフレキシブルに選択し、つながりやすく切れにくい通信環境を実現します。

■ 32kPIAFS方式

PHSの通信標準規格で最大速度32kbpsの通信方式です。

PIAFS対応のターミナルアダプタ (TAP) やPHSを用いたアクセスポイントに接続することにより、32kbpsの高速データ通信が可能です。

■ フレックスチェンジ方式

ウィルコムが提供している最大通信速度64kbpsの通信方式です。通信中のデータ量に従い、「1xパケット方式」と「64kPIAFS (ベストエフォート方式)」を、自動的に切り替え、スムーズな通信環境を実現する通信方式です。

回線使用状況などにより64kPIAFS方式での通信を維持できない場合でも、パケット方式で通信を継続するので、再接続する必要はありません。

ご利用になるには、ウィルコムのフレックスチェンジ方式専用の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

お知らせ

- パケット方式の速度表記は、PHS高度化通信規格 (W-OAM) 対応時の最大通信速度となります。
- ウィルコムのデータ通信に関するお問い合わせ (2007年1月現在)
本電話機から 局番なしの157 (無料)
一般電話・公衆電話から 0120-921-157 (無料)
受付時間 (日・祝日も受付): 9:00 ~ 19:00

データ通信ソフトをインストールする

USBドライバのインストール

本電話機とパソコンをUSBケーブルで接続してデータ通信を行うには、あらかじめ、本電話機をモデムとして動かすためのドライバをパソコンにインストールする必要があります。

AH-J3001V/AH-J3002V/AH-J3003Sをお使いで、パソコンにドライバをインストールされている場合は、新たにドライバをインストールする必要はありません。

■本電話機の対応OSについて

本電話機と接続可能なパソコンの対応OSは以下のとおりです。ただし、すべてのパソコンについての動作を保障するものではありませんのであらかじめご了承ください。

● Windows

Windows XP Professional
Windows XP Home Edition
Windows 2000 Professional

● Macintosh

Mac OS X v10.1.5～v10.4.1、v10.4.3～v10.4.8
Mac OS 9 v9.2～v9.2.2

ご注意

- 以下の場合はサポート対象外となりますのであらかじめご了承ください。
 - ・自作したパソコンをご使用の場合
 - ・対応OSがプレインストールされていないパソコンをご使用の場合
 - ・OSをアップグレードしたり、OSを入れ替えたパソコンをご使用の場合
 - ・パソコンのハードウェアとOSとの相性により正常に動作しない場合
 - ・パソコンの設定や環境によって正常に動作しない場合
 - ・増設したUSB端子をお使いの場合
 - ・USBハブなどを經由して接続している場合
 - ・パソコンに本電話機以外のUSB機器が接続されている場合

ドライバのインストール方法は、お使いのパソコンのOSによって異なります。

- Windows XPの場合 (☞ 10-6ページ)
- Windows 2000の場合 (☞ 10-8ページ)
- Mac OS Xの場合 (☞ 10-10ページ)
- Mac OS 9の場合 (☞ 10-11ページ)

・本電話機はWindows98SE、Windows Meのインストールされているパソコンとの接続に対応しておりません。また、動作保証もいたしかねます。あらかじめご了承ください。

WindowsはMicrosoft Corporationの、Macintosh、Mac OSはApple Computer, Inc.の登録商標です。

■ Windows XPの場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れる

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

3 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(※P.10-2ページ)

接続を行うと、パソコンのディスプレイに「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示され、インストールが開始されます。

4 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックする



ドライバのインストールが開始されます。

5 インストールされたドライバが「JRC USB Modem」であることを確認し、[完了]をクリックする



ドライバのインストールが終了します。

▶ 下の画面が表示されたとき

インストール中に、下の警告画面が表示されることがあります。この場合、「続行」をクリックしてインストールを続けてください。



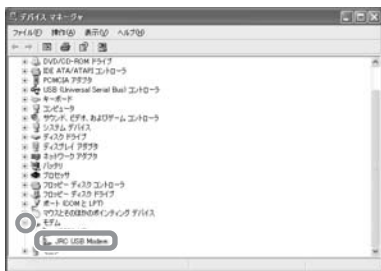
6 [スタート]メニューから、[設定] → [コントロールパネル]を選択し、[システム]をダブルクリックする



7 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイス マネージャ] をクリックする



- 8 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックし、「JRC USB Modem」が表示されていることを確認する



- 9 「JRC USB Modem」を右クリックし、「プロパティ」を選択する



- 10 [モデム] タブをクリックし、「ポートの最高速度」のプルダウンメニューから最も大きな値を選択し、[OK] をクリックする



以上で設定が完了します。

■ Windows 2000の場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れる

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

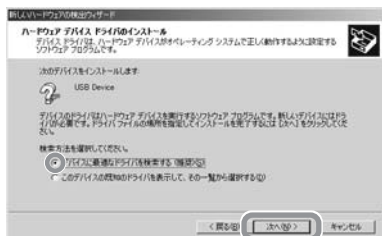
3 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(P.10-2ページ)接続を行うと、パソコンのディスプレイに「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示され、インストールが開始されます。

4 「次へ」をクリックする



5 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」をクリックする



6 「CD-ROM ドライブ」を選択し、「次へ」をクリックする



7 インストールされたドライバが「JRC USB Modem」であることを確認し、「完了」をクリックする



ドライバのインストールが終了します。

▶ 下の画面が表示されたとき

インストール中に、下の警告画面が表示されることがあります。この場合、「はい」をクリックしてインストールを続けてください。



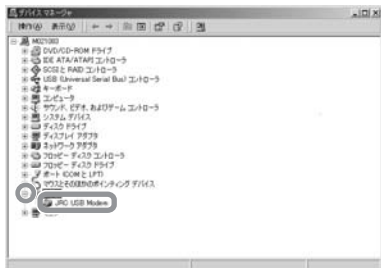
- 8 [スタート]メニューから、[設定] → [コントロールパネル] を選択し、[システム] をダブルクリックする



- 9 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイス マネージャ] をクリックする



- 10 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックし、「JRC USB Modem」が表示されていることを確認する



- 11 「JRC USB Modem」を右クリックし、[プロパティ] を選択する



- 12 [モデム] タブをクリックし、「ポートの最高速度」のプルダウンメニューから最も大きな値を選択し、[OK] をクリックする



以上で設定が完了します。

■Mac OS Xの場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

2 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(P.10-2ページ)

3 付属のCD-ROMの中にある「JRC USB MODEM」を、「ライブラリ」の「Modem Scripts」フォルダへコピーする



ご使用のシステムのバージョンによっては、「ライブラリ」は「Library」と表示されています。

4 「システム環境設定」から「ネットワーク」を選択し、「表示」プルダウンメニューから「USBモデム」を選択する

「表示」プルダウンメニューに「USBモデム X」(Xは任意の数字)と表示されることもあります。



5 「モデム」タブをクリックし、「モデム」のプルダウンメニューから「JRC USB MODEM」を選択し、[今すぐ適用]をクリックする



以上で本電話機をモデムとして動かすための準備が終了します。

■ Mac OS 9の場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

2 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(※P.10-2ページ)

3 付属のCD-ROMの中にある「JRC USB MODEM」を、「システムフォルダ」の「機能拡張」フォルダ内の「Modem Scripts」フォルダへコピーする



4 「システムフォルダ」内の「コントロールパネル」の「モデム」をダブルクリックする

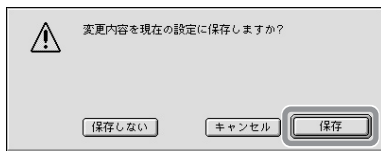


5 「経由先」のプルダウンメニューから「USB Modem 1」を、「モデム」のプルダウンメニューから「JRC USB MODEM」を選択する

「経由先」プルダウンメニューに「USB Modem X」(Xは任意の数字)と表示されることもあります。



6 「モデム」ウィンドウを閉じ、[保存] をクリックする



以上で本電話機をモデムとして動かすための準備が終了します。

■ Windowsでご利用になる場合のご注意

- インストール時に割り当てられるCOMポート番号が、パソコンによっては内蔵モデムや赤外線ポート (IrDA) のCOMポート番号と重なってしまう場合があります。重なった場合、正常に動作しなくなりますので、内蔵ポート、赤外線ポート (IrDA) をデバイスマネージャ上で「使用不可」にするか、モデムポート先を変更してからお使いください。
- WX220Jはモデムとしてインストールされますが、既に複数のモデムがインストール済みのパソコンにインストールした場合、正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、既にインストール済みの各種モデムを、「モデムのプロパティ」から削除してください。
- Windows XP搭載のパソコンを本電話機と接続するとき、パソコンがモデムとして認識するのにしばらく時間がかかります。そのため、本電話機との接続の直後に通信を開始しようとすると正常に動作しませんのでご注意ください。本電話機と接続後、10秒ほど時間を置いてから使用してください。
- Windows XP、Windows 2000でお使いの場合、ダイヤルアップ接続やターミナルソフトなどによりCOMポートをオープンした状態でUSBケーブルを抜くと、パソコンの動作がやや不安定になることがあります。USBケーブルを抜いたあとは、10秒ほど時間を置いてから再度USBケーブルを差し込むようにしてください。

■ Macintoshでご利用になる場合のご注意

- Mac OSでお使いの場合、リモートアクセスやターミナルソフトなどによりCOMポートをオープンした状態でUSBケーブルを抜くと、システムの状態が不安定になります。USBケーブルは、必ずMacintosh側でCOMポートをクローズ (接続断) したあとに抜いてください。また、このような操作を行った場合には、Macintoshを再起動してください。

■ サポートWebサイトのお知らせ

- インストールがうまくいかない場合には、サポートWebサイトのQ&Aもご覧ください。
サポートWebサイト <http://www.jrcphs.jp/>
このサイトへはパソコンからアクセスしてください。

■ USBドライバが誤認識された場合の対処法 (Windows XPおよびWindows 2000)

インストールを中断し、USBドライバが誤認識されてしまった場合は、デバイスマネージャから誤認識された「USB Device」を削除し、再度USBドライバのインストールを行います。(下記の画面はWindows XPの場合の例ですが、操作はWindows 2000の場合も同様です。)

1 パソコンと本電話機の電源を入れ、
USBケーブルで接続する

2 デバイスマネージャを表示させる

(Windows XPの場合: ☞ 10-6ページの手順6
~7、Windows 2000の場合: ☞ 10-9ページ
の手順8~9)

3 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックする

先頭に「!」の付いた「USB Device」が表示されています。



4 「USB Device」を右クリックし、[削除]を選択する



5 [OK] をクリックする



6 「USB Device」が消えていることを確認する



以上の操作のあと、再度USBドライバのインストールを行ってください。

通信方式を設定する

64kPIAFSの選択

64kPIAFS通信の方式を、ベストエフォート方式とギャランティー方式から選択します。ウィルコムと公衆サービスの契約をされている場合は、ベストエフォートに設定してください。

1 待ち受け画面で (Menu ボタン)

  と押す

データ通信方式選択画面が表示されます。

2 を押して、通信方式を選択する

ベストエフォート

プロバイダがPIAFS 2.1版に準拠している場合に選択します。

つながりやすく切れにくい通信方式です。

ギャランティ

プロバイダがPIAFS 2.0版に準拠している場合に選択します。

3 (決定) を押す

お知らせ

- お買い上げ時、データ通信方式は「ベストエフォート」に設定されています。他の事業者と公衆サービスの契約をされている場合は、各事業者にご確認のうえ、必要に応じて「ギャランティ」に設定してください。ウィルコムと契約されている場合は「ギャランティ」はご利用になれません。
- オフィスモードで使用する場合は、オフィスシステム (PBX) が対応している方式を設定してください。「オフィスモードで使う」(※ 13-4ページ)
- 本機能を「ベストエフォート」に設定している場合でも、アクセスポイントの電話番号の末尾に「##41」が入力されているときは、ギャランティ方式で発信します。また「ギャランティ」に設定している場合、アクセスポイントの電話番号の末尾に「##4」が入力されているときは発信できません。「ダイヤルアップを設定する」(※ 9-29ページ)「通信方式の設定」(※ 10-15ページ)
- フォールバック機能 (64kギャランティ方式での発信の際、64kbpsで通信ができない場合に自動的に32kbpsに通信速度を落としてリダイヤルする機能) には対応していません。

通信方式の設定

本電話機での通信方式の設定とは別にパソコン側で、どのアクセスポイントに接続するかによって、通信ソフトの設定を変える必要があります。

▶ パソコンの通信ソフトの設定を変えるには

パソコンなどでアクセスポイントの電話番号を入力するとき、続けて下表の番号を入力します。

アクセスポイント	電話番号に続けて
4x パケット方式※、2x パケット方式※	##64
1x パケット方式※	##61
64kPIAFS (ベストエフォート)	##4
64kPIAFS (ギャランティー)	##41
32kPIAFS	##3
フレックスチェンジ方式※	##7

発信者番号通知の設定に関係なく本電話機の電話番号がアクセスポイントに通知されますので、あらかじめご了承ください。「発信者番号通知を設定する (発信者番号通知)」(※11-2ページ)

※ 4xパケット方式、2xパケット方式、1xパケット方式、フレックスチェンジ方式対応の料金コースをご利用のお客さまは、32kPIAFS、64kPIAFSで通信を行う場合、パケットごとの課金ではなく時間で課金されるため、別途料金が発生しますのでご注意ください。

お知らせ

- データ通信を行うための詳しい設定や操作は、お買い求めのパソコン、PDA、通信ソフトの取扱説明書をご覧ください。なお、ダイヤルアップの設定については、付属のCD-ROMの「WX220J ダイアルアップ設定ガイド」をご覧ください。
- 64kPIAFS方式をご利用になる場合は、「64kPIAFSの選択」(※10-14ページ) もご覧ください。


データ通信で発信する

1 USBケーブルで接続したパソコンでデータ通信の発信操作をする

通信方式の種別がアイコンと文字で表示され、発信先の電話番号が点滅します。


● 表示されるアイコン

PT : 4xバケット方式 / 2xバケット方式 / 1xバケット方式

 : 64kPIAFS (ベストエフォート)

 : 64kPIAFS (ギャランティ)

 : 32kPIAFS

 : フレックスチェンジ方式

アクセスポイントに接続すると、画面に通信時間が表示されます。

2 パソコンから切断操作をする

画面に「通信終了」と表示され、待ち受け画面に戻ります。

ご注意

- 本電話機をパソコンと接続してパソコンでデータ通信を行っている最中は、電話機単体でのインターネット接続やEメールの送受信はできません。
- 電話機単体でインターネット接続やEメールの送受信を行っている最中は、本電話機をパソコンと接続してのパソコンでのデータ通信はできません。

ダイヤルアップ接続時に「エラー 692:」のメッセージが表示され、接続できない場合の対処法 (Windows XP)

インストールされたUSBドライバの、モデムに対するハードウェア設定を変更します。

- 1 パソコンと本電話機の電源を入れ、USBケーブルで接続する
- 2 [スタート]メニューから[接続] → [すべての接続の表示] を選択し、利用するダイヤルアップ接続のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択する

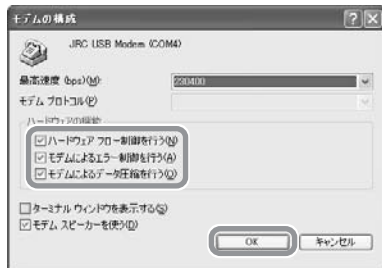


- 3 [構成] をクリックする



- 4 「ハードウェアの機能」の項目にチェックが入っているかどうかを確認し、[OK] をクリックする

チェックが入っていない場合は、下の画面のようにすべてにチェックを入れてください。



- 5 [OK] をクリックする



パソコンとの連携

データ通信を行う



パソコン接続中に着信する

本電話機をパソコンと接続しているときに、データ着信があった場合、着信操作はパソコン側で行います。


1 着信音が鳴る

公衆モードで設定した着信音が鳴ります。「着信音やアラームを設定する」(※7-49ページ)着信LEDが点滅します。

▶ USBケーブル未接続のときには

を押すか、USBケーブルを接続してパソコンで着信の操作をするまでは、着信音が鳴り続けます。での応答はできません。

お知らせ

- USBケーブルでパソコンと接続されていない状態で、相手から着信があったときに応答せずに相手側からの着信が切れると、不在着信となり、待ち受け画面に「」が点灯します。相手の電話番号などが着信履歴に記録されます。「記録されている電話番号にかける(リダイヤル/着信履歴/ダイヤルメモ)」(※7-5ページ)

2 パソコン側でデータ着信の操作を行う

通信が開始されると、画面に通信時間が表示されます。

パソコンを使って電話をかける

USB ケーブルで接続したパソコン上のターミナルアプリケーションなどから、電話をかけることができます。

1 パソコン側で「ATD * * * * * ##0」と入力する

「* * * * *」は相手の電話番号です。

相手が電話に出ると、本電話機から電話をかけたときと同じように、本電話機で通話できます。

2 通話が終了したら、本電話機の を押す（または相手が通話を切る）

本電話機に「終話」と表示され、待ち受け画面に戻ります。

お知らせ

- 以下の場合は、パソコンから電話をかけることはできません。
 - ・ 本電話機をグループモードまたは電話帳転送モードに設定している場合 「利用するモードを選ぶ」(※ 13-2 ページ)
 - ・ USB 制限を「ON」に設定している場合 「USB 接続を制限する」(※ 11-21 ページ)
 - ・ 発信制限を「ON」に設定していて、電話帳に登録されていない番号の場合 「発信を制限する」(※ 11-22 ページ)
 - ・ 先頭一致発信許可を設定していて、登録されている番号と不一致の場合 「先頭一致発信を許可する」(※ 11-23 ページ)
 - ・ ダイヤルをロックしている場合 「ダイヤルをロックする」(※ 11-10 ページ)
 - ・ リモートロックが実行されている場合 「紛失/盗難時に電話機をロックする (リモートロック)」(※ 11-12 ページ)
- キーロックを設定していても、パソコンから電話をかけることができます。「ボタン操作をロックする (キーロック)」(※ 11-9 ページ)
- 通話中に、パソコン上のアプリケーションを終了したり[切断]をクリックした場合、またはUSBケーブルを抜いた場合でも、通話は継続されます。
- パソコンからかけた電話番号は、本電話機のリダイヤル (発信記録) に記録されます。
- パソコンから電話をかける時も、分計発信を利用できます。「料金分計サービスを利用する (有料)」(※ 12-38 ページ)
- パソコンから電話を受けることはできません。

